

尼崎双星高校との高大連携プロジェクト



DATA

●主な連携先・メンバー

〈主な連携先〉尼崎市立尼崎双星高校〈メンバー〉4回生：岸田敦司・蔵本直哉・高段玲奈・原優花・松田果穂・山本のどか／3回生：西山由麻／2回生：東真彩

●活動地域

尼崎市立尼崎双星高等学校／
関西大学高槻キャンパス

●活動資金

なし

活動の目的

- 1 高校生に大学についての具体的なイメージを持ってもらう
- 2 高校の延長にある大学の情報の授業ではどのようなことを学んでいるのかを知ってもらうため

連携にいたる経緯

情報科の教員として働いている私たちの研究室の卒業生の先輩に、大学進学にあまり興味を持たない高校生に大学での勉強の学び方や楽しさなどを感じてもらえるようなワークショップを企画してほしいという話から連携が始まった。

活動内容

双星高校の生徒5人+関西大学のファシリテーター1、2人で振り分けられた各グループを取材班と設定し、関西大学総合情報学部の宣伝を依頼する。各々振り分けられた担当の業務を遂行しまずは取材（キャンパス見学）を行なった。キャンパスを回りながら自分たちの最も伝えたい場所で取材をし、二分間という短い時間のなかで相手にわかりやすく伝えるために話し合いをしながら編集をした。最後には実際にスタジオを利用し報道（発表）までを行なってもらった。そして最終的にはその日の活動とメディアリテラシーとの関連性を伝え、メディアの特性や情報の受け取り方を理解してもらった。



活動の成果

- 1 高校生がメディアリテラシーという言葉を知り、ニュースの見方が変化した
- 2 高校生が関西大学高槻キャンパスの魅力を発見した
- 3 先生方からも何より楽しかったと言ってもらえた

今後の課題・目標

- 1 この授業を通して高校生に情報に興味を持ってもらうこと
- 2 これから生きていく上で情報との関わり方を学んでもらうこと
- 3 高校生に伝わりやすいものを追求しつづけること

●教員紹介



総合情報学部 教授 久保田 賢一（くばた けんいち）

「学ぶことは生きること」をモットーに、学生が生き生きと活動することを通して社会貢献する学習環境のデザインを研究している。その方法として、教室の外に出て、地域の人たちと連携して活動をするプロジェクト型のアクティブラーニングを推進している。学生が主体的・自律的に活動するためには、上級生と下級生の連携、外部の人たちとの協働が欠かせない。国内だけではなく、海外の大学やNGOと協働して、現実社会の問題解決に取り組む。